

研修みずのわ

Vol. **53** 2020

記念号

研修生
7万5千人
達成

(日本名水百選「出流原弁天池湧水」・栃木県佐野市)



地方共同法人

日本下水道事業団

Japan Sewage Works Agency

研修センター

Contents



写真：栃木県佐野市総合政策部秘書課提供

巻頭言	辻原 俊博	日本下水道事業団	1	
新任のご挨拶	畑 恵介	日本下水道事業団	2	
ごあいさつ	松村 弘之	日本下水道事業団	3	
特別講義	寺澤 薫	宮城県七ヶ浜町長	4	
研修生7万5千人達成によせて(あの時の研修を振り返って)				
	岡部 正英	栃木県佐野市長	6	
	松本 茂幸	佐賀県神埼市長	7	
	熊谷 清一	宮城県松島町副町長	8	
	紀之國 暁	奈良県生駒市	9	
研修生7万5千人達成によせて(研修への要望・期待等－研修生の声－)				
	大野慎太郎	クリアウォーターOSAKA(株)	10	
	佐藤 仁美	宮城県栗原市	11	
	池川 裕和	熊本県	11	
	木下 明生	(公財)東京都都市づくり公社	12	
	村松 和成	静岡県富士宮市	13	
	赤坂 嘉宣	青森県弘前市	15	
	杉澤 秀幸	大阪府吹田市	16	
	山崎 朝子	静岡県静岡市	17	
同窓会ニュース				
「宮山福会」	平田 太良	福島県鮫川村	18	
	佐々木健太郎	埼玉県	18	
「山口みずのわ会」	市村 太郎	山口県防府市	20	
「福岡みずのわ会」	月森 光一	福岡県福岡市	21	
「筑豊みずのわ会」	村中 修平	福岡県直方市	22	
「みずのわ熊本会」	藤原 基	熊本県熊本市	23	
平成30年度研修生アンケート集計結果について				24
令和2年度JS研修センター研修計画調査等の集計結果及び				
令和2年度研修実施計画について				25
下水道技術検定及び下水道管理技術認定試験について				29
研修センターの歩み				31
編集後記				巻末

巻頭言

研修生7万5千人を達成、さらなる向上へ

日本下水道事業団

理事長 辻原 俊博



日本下水道事業団は、昭和47年11月に「下水道事業センター」として発足し、昭和50年に認可法人・日本下水道事業団を経て、平成15年に地方共同法人・日本下水道事業団となり、令和4年11月には創立50年を迎えます。JWSでは、発足した翌年の昭和48年から研修事業を開始しており、人材育成を通して下水道界の発展を支えるべく歩みを進めて参りました。令和元年8月に研修生が7万5千人を達成い

たしましたが、これはひとえに、歴代の研修生、派遣団体の方々、講師、研修業務の関係者等、多くのみなさまのご支援、ご尽力の賜物と、心から感謝申し上げます。

JWS全体としては、現在第5次中期経営計画（H29～R3）に基づき、全ての役員が一致団結し、下水道ソリューションパートナーとして地方公共団体が抱える課題を共に考え、解決策を提案するなど総合的支援に取り組みとともに、下水道ナショナルセンターとして下水道事業全体の進化・発展に寄与し、多岐にわたる下水道関連分野の基礎研究力及び現場への応用力の維持・発展、人的資産の蓄積を実現していくために研修を含めた業務に取り組んでいること

ろです。

JWSの研修事業では、下水道事業に携わるベテラン職員が順次退職していく中、社会情勢の変化に対応して第一線で活躍できる人材の育成を目指し、地方公共団体のニーズを踏まえた研修内容の拡充を行っています。令和元年度には地方研修として新たに下水処理場、管路施設の維持管理セミナーを開始するとともに、令和2年度からは、地球温暖化に対する国の施策を踏まえたコースの新設、既存コースの一部リニューアルを実施する予定です。さらに、近年の出水期の長期化傾向などにより長く職務を離れられなくなっている状況を考慮し、今後より多くの方が受講しやすいように研修期間の短縮化や研修の地方開催などにも力を入れていきます。

に、寮室では、このような人間関係を育みやすいよう数人毎のグループ討議室が確保されていることは、研修センター施設の最大の特徴のひとつです。研修を経験された方々の感想でも、このような施設による研修については、大変有意義であったとのご意見を数多くいただいております。

現在、研修センターでは、研修施設の再構築中長期計画を策定し、それに基づき、令和4年に運用を開始する新寮室棟の整備にも取り組んでいるところであります。新寮室棟では、災害時の浸水を想定した構造やアメニティの向上、女性研修生の増加等に対応した研修環境の改善・向上を図ります。さらに、新寮室棟においてもグループ討議室を整備する予定となっており、引き続き、研修の成果として、知識習得・技術向上だけでなくネットワークを構築していただくことを目指していきます。

また、JWSの研修では、座学だけでなく実習やディスカッションに力をいれたカリキュラムとなっています。これにより、研修効果がすぐに実務に生かせるとともに、研修生同士の交流を通じて研修生間及び講師陣とのネットワークを構築することができ、終了後も情報交換や交流を深めることができます。特

研修がさらに魅力的になるよう皆様からのご意見を踏まえ、絶えず努力し続けることにより、今後とも、人材育成を通じて下水道界全体の進化・発展に寄与してまいります。引き続き、JWS研修の更なる活用等、みな

さまのご支援、ご指導をよろしくお願ひします。

新任のご挨拶

美しい地球を
次世代に引き継ぐために

日本下水道事業団

理事 畑 惠介



令和元年11月1日付で研修・国際及び東日本担当理事に就任しました畑恵介です。どうぞよろしくお願ひします。

私は、昭和55年に神戸市下水道局に入庁し、市役所生活36年中、34年間にわたり下水道の仕事を担当させていただきました。なかでも、平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災は、私にとっても、神戸市下水道にとっても最大の出来事でした。神戸市の下水道施設も甚大な

新、災害対策、アセットマネージメント、企業会計制度の導入など、時代の要請に応えるべく研修テーマの充実を図ってきました。

また、全寮制での研修により育まれた人的ネットワークは、皆さんの貴重な財産として現在も活用されています。

令和元年度には、新寮室棟の建設工事に着手します。新寮室棟の整備においては、災害時の安全性向上と災害支援機能の強化を図るとともに研修生のニーズを踏まえた研修環境と生活環境の改善、向上を目指します。

令和元年台風19号では、関東甲信地方、静岡県、新潟県、東北地方での降水量が観測史上1位を更新するなど、記録的な大雨となり、広範囲で大規模な浸水被害が発生しました。そして、毎年のように全国のどこかで大雨特別警報が発表され、真夏には「生命に危険を及ぼす暑さ」と報道されることもしばしばです。地球温暖化とこれらの異常気象との因果関係は明確にはされていませんが、下水道事業においても災害対策に加えて地球温暖化対策に取り組むことも重要なテーマとなってきました。

下水道事業に携わる者としては、地球環境を取り巻く昨今の情勢を見極め、必要な施策を展開することが重要です。そして、この美しい地球を次世代に引き継ぐことが我々の使命であると思えてなりません。

下水道事業団の研修事業が下水道事業に携わる方々の知識の向上、人的ネットワークの形成に資するとともに、さらに下水道事業が地球環境保全で果たすべき役割を考える機会を提供できれば幸いです。

今後とも下水道事業団の研修事業に一層のご理解とご支援をよろしくお願ひします。

被害を受けるとともに、神戸市の財政は一般会計、下水道事業会計とも危機的な状況となりました。それを乗り越えるために厳しい行財政改革を断行しながら、災害復旧事業や震災復興事業に取り組みました。その過程では、国土交通省を始め、多くの自治体、企業の皆さんから絶大なご支援をいただきました。この紙面をお借りして、心よりお礼申し上げます。

さて、日本下水道事業団の創設時点より取り組んで参りました研修事業も歴史を積み重ね、7万5千人を超える方に参加していただきました。この間に、下水道を取り巻く状況も変化してきており、研修テーマも下水道の整備、普及促進、事業経営などのテーマに加え、改築更

ごあいさつ

研修環境の改善・向上への
取り組みについて

日本下水道事業団 研修センター

所長 松村 弘之



さて、JS研修センターでは、研修開始以来、地方公共団体の研修生総数で7万5千人を達成しました。これもひとえに皆様方のご支援・ご協力の賜と感謝する次第です。

平素は、日本下水道事業団（JS）研修センターへのご理解とご協力を賜り、皆様方には大変感謝申し上げます。そして、昨年度の7月豪雨に続きまして、本年度も台風15号、19号等により、各地にこれまでに経験した事のないような甚大な災害がもたらされました。被災にあわれた方々には、心よりお見舞いを申し上げますと共に、一日も早い復旧・復興をお祈り致します。

に求められます。第三は、ストック施設の老朽化です。築後、数十年が過ぎる施設につきましては、重要度や緊急度を勘案し、計画的・効率的な再構築が必要になっていきます。

ところで、社会情勢の変化を受けまして、研修を取り巻く環境も大きく変化してきています。第一に、女性研修生や女性講師の増加です。女性の社会進出と活躍が目覚ましい昨今の状況を鑑みますと、この傾向は今後も益々高まるものと推測されます。第二に、近年頻発している地震や集中豪雨等への防災対策の緊急性と重要性の高まりです。今では、想定外や想定不可といった言葉が許されなくなりつつあります。このため、生命と財産を守る最大の努力が早急

当研修センターも上記事項を踏まえまして、研修センター施設の再構築を計画的・効率的に進めることにしています。その全体コンセプトは、ナショナルセンターとしての中核的施設の機能強化の早期実現です。詳細

コンセプトは、災害発生時の研修生や研修施設等の安全性の確保・向上と地域貢献を含めた災害時支援機能の強化並びにニーズを踏まえた研修生生活環境の改善・向上です。具体的には、新寮室棟の建設があげられます。新寮室棟の築造にあたりましては、免震構造の採用や受変電設備及び自家発電設備の屋上設置並びに各種イベント開催や災害発生時の対策本部に代替可能となる多目的スペースの設置等により、防災機能と災害時支援機能を高めて参ります。

方法の採用、その他女性専用スペース内談話室とパウダールームの設置等、特に今後増加が予想される女性研修生への生活環境の改善・向上と安全面の強化を図ると共に、研修生活への細かな配慮も行って参ります。

このように、JS研修センターでは、「第一線で活躍できる人材の育成」を推進するために、研修環境の改善と向上に取り組んで参ります。

その他、JS研修センターでは戸田研修や地方開催研修以外の研修方法も実施しておりますので、人材育成に関して何かご要望・ご要請等が御座いましたら、気楽にご相談頂ければ幸いです。

そして、多くの方々にJS研修を体験して頂けるように、これからもニーズを踏まえた研修内容の充実と施設の改善・向上に努めて参りますので、JS研修を宜しくお願ひ致します。

次に、生活環境の改善・向上では、寝室部の個室化とグループ学習室との併設や男性用、女性用大浴場の新設、さらにICカードによるセキュリティ管理

特別講義

信頼と期待に応える 人材育成に貢献



宮城県七ヶ浜町

町長 寺澤

薫

や現状をお伝えできる機会を設けていただき、厚く御礼と感謝を申し上げます。次第であります。

令和と元号が改元され新しい時代がスタートしましたが、いつの時代も平穏で穏やかな日常がいかに大切であるかということ、災害を通じて考えさせられます。

今回もまた、渡邊良彦特任教授からのお声掛けをいただき、東日本大震災の風化が叫ばれている中、特別講義として丸9年となる震災の経過

さて、文頭でも申し上げましたが、新しい時代は希望に満ちた平穏な時代になることを心から願ってやみませんが、最近、台風被害や豪雨被害など、これまで経験したことのない数々の大規模な自然災害が猛威をふるって激甚な被害をもたらしております。

特に昨年の台風19号では、宮城県を含む静岡県から岩手県の13都県に大雨特別警報が発令され、広範囲に

わたって甚大な被害をもたらしたことは記憶に新しいところであります。被災された皆様には、心からお見舞いを申し上げ、一日も早い復旧・復興を願うばかりであります。

私たちも、あの未曾有の被害をもたらした東日本大震災から、早9年の月日を迎えようとしております。本町の復興事業もようやくゴールが間近に見えて参りました。津波で大きな被害を受けた沿岸部では、3年前に再開した海水浴場が多く、海水浴客が訪れ、新たな賑わいが生まれるなど、七ヶ浜の夏の風景が戻って



参りました。

しかしながら、「真の復興」には未だ長い道のりが残されております。また時間の経過とともに新たな課題も生まれます。特に住民の「心の復興」や「地域コミュニティの再生」については今後も丁寧な対応のもとで取り組んでいかなければなりません。

今回の特別講義では、私たちが実際に経験した初動時の状況や対応など、町職員の対応を中心にお話をさせていただきました。どちらかというとアナログ的なことを中心に話をしましたが、近い将来では、こういった災害時での対応も、人工知能（AI）が過去の膨大なデータをもとに予測し判断する……といったことが現実になるかもしれませんね。

ソサエティ5.0社会の到来や5Gが浸透して私たちの仕事の多くをAI（人口知能）が判断する時代となるかもしれません。もしかしたら、被害予測やその対応もAIから指示が出されるかもしれません。

これからは、どこでどんなことが

起きるかわかりませんが、災害が狂暴化し、デジタルな部分とアナログな部分を兼ね備えた人材が必要となるでしょう。臨機応変な人の対応や的確な指示が出せる人材が必要不可欠です。

特に大規模災害時においては、どのようなイレギュラーな事案が起きるかわかりません。迅速で磨き上げられた職員の対応力が求められるのです。災害対応にあたっては、引き出しを多く持ち合わせ、状況判断できる多くの人材を育てていくことが、災害大国日本としての重要な責務であると思います。幅広い視点や地理的、気象的な条件も含めて、その技術やそのノウハウを継承していくことも重要と思われまます。

そういった大きな役割と貢献を果たしてきたのが日本下水道事業団研修センターであり、これまで延べ7万5000人もの人材を育成・輩出し、全国、行政マンの技術の向上はもとより、ハブ機能とネットワークをもつ事業団の貢献度は、はかり知れないものがあると思っております。

す。

これからの10年は、国際情勢をはじめ、環境・福祉・情報通信技術の進展など、私たちを取り巻く社会情勢や生活環境が目まぐるしく変化する時代となるでしょう。

持続可能な社会を模索していく中、「安全・安心なまちづくり」は全国の自治体を取り組むべき最重要課題であり、それぞれの自治体の地勢的な違いはあるものの、この研修で私がお話した一片でも研修生の皆さんの一助となり、有事の際の対応、行動に活かされることがあれば幸甚であります。私も、研修生の真剣な眼差しに触れ大きな力をいただいた気がします。研修生の皆さんには、各自自治体において幅広く活躍されることを期待しております。

結びに、日本下水道事業団の皆様には、技術の伝承はもとより、信頼と期待に応える人材の育成にお一人層ご尽力いただきますとともに、下水道事業団の益々のご隆盛と今回貴重な機会を与えていただきましたことに感謝と御礼を申し上げます。

研修生7万5千人達成によせて（あの時の研修を振り返って）

研修の重要性を再認識する
台風19号

栃木県佐野市

市長 岡部 正英



師、「佐野プレミアム・アウトレット」でご存じの方も多いかもありません。

日本下水道事業団研修センターの研修生7万5千人達成、誠におめでとうございます。心からお慶び申し上げます。

栃木県佐野市は、栃木県の西部、東京から70キロ圏に位置しており、東京からは車で、1時間程度の場所となります。東北自動車道と北関東自動車道が交差し、現在4つ目のインターチェンジ設置を進めている高速交通の要衝であり、「佐野らーめん」や「佐野厄除け大

は、本市からも毎年数名の職員が参加させていただき、下水道事業センター設立当初の昭和48年から現在まで、延べ90名を研修生として送り出しております。また、広範な専門知識や技術を必要とする下水道事業において、危機管理意識の向上などを含めた人材育成、そして育成した技術や知識の継承をどのように行うかが地方公共団体では課題となっており、少子高齢化社会の訪れとともに、人材確保の難しさを改めて痛感し、特に技術を伴った人材の確保には苦慮しているところでもあります。

そうした中で、日本下水道事業団の研修では、「第一線で活躍できる人材の育成」を研修の目標とし、次代を担う人材の育成に取り組みれております。人口が徐々に減り、社会を取り巻く環境や課題も日々変化していくなかで、人材の確保、そして人材の育成は今後ますます重要な意味をもち、この研修も今まで以上に意義深いものになると考えております。

また、皆様の御記憶にも新しいかもしれませんが、2019年10月に東日本一帯を襲いました台風19号では、本市にある1級河川の「秋山川」が決壊し、甚大な被害となりました。

住家の床上浸水約1,500棟、床下浸水約1,200棟、土砂災害7箇所、橋梁被害10



復興さのまる



元気な佐野市へ! 佐野市復興プロジェクト



唐沢山城跡 8メートルを超す高石垣
2017年には全国山城サミットを開催した

箇所、冠水した農地や被災した企業も数多く、現在、市内の復旧・復興に向けて全力で取り組んでいるところです。

この台風では本市において今までに見えない程の降雨量により、想定外の事態が数多く発生し、これまでの危機管理体制について改めて修正すべき点がいくつも見つかりました。マニュアル等はしっかりと準備しておりましたが、同時多発的に様々な事象が起きた時の、初動指示の難しさにも改めて気づかされました。

不測の事態に対応するために

は、やはり知識と経験がものを言うということを実感し、こうした時にも対応できる職員を育て上げることが非常に重要であると改めて強く感じました。

日本下水道事業団におかれましては、今までの研修に加え、危機管理能力そして、対応能力を上げる研修を今後、実施していただくことを切に願います。

結びに、日本下水道事業団のますますのご発展と受講された皆様のご活躍、そして関係者の皆様のご健勝をご祈念申し上げます。

「研修みずのわ」(第53号)の 原稿依頼を受けて

佐賀県神埼市

市長 松本 茂幸

(H7・H8年度生)



ど思い出せません。私は、平成7年と平成8年の2回研修を受けてますとのこと。書くと言ったので：書かねばと思い、数日、手付かずのまま…。

このような状況からして、的外れな寄稿文になることをお断り申し上げ、かつ、お許しをお願いいたします。

さて、我が神埼市は、平成の大合併により2町1村が平成18年3月20日に合併して誕生した3万3千人の新市であります。下水道の整備は公共下水道、農業集落排水、合併処理浄化槽の3事業で行っております。

令和元年11月初め、私は「日本下水道事業団 研修センターから原稿依頼があつていますが、如何しますか」との報告を受け、日本下水道事業団には何かと指導いただき、お世話になってることから、即、「原稿は書くべきだろうな、書こう」と答えたものです。で、「何を書くのか」と尋ねたら、「以前に、市長は日本下水道事業団の研修を受けられているので、その体験談を依頼されています」とのこと。確かに、以前研修を受けましたが、当時のことはほとん



マンホールデザイン (神埼市)

旧神埼町では下水道担当部署が設置された平成7年当時は、地域の河川や自宅周辺の水路の水質の汚れが厳しく、また、水洗トイレの設置への生活様式の変化と生活環境改善への住民意識が高まっており、下水道事業への取り組みが求められていました。

河川・水路の水質状況

年度	神埼地区	千代田地区
	BOD (mg/l)	BOD (mg/l)
H9	23.0	4.0
H30	1.3	3.8

住民の要請にこたえるべく新設された下水道部局では、全世界に及ぶ改善策を考え、住宅密集の中心市街地地域は公共下水道で、農村地域は農業集落排水(3ヶ所)で取り組み、投資効果が難しい散在住宅にあつては合併処理浄化槽でもって網羅する計画を策定しました。計画に基づき、年次進捗を図り、今日の整備状況は69%となり、いまだ7年の期間を要する見込みとなっております。

合併処理浄化槽整備を図った千代田地区、脊振地区における進捗状況は普及率54%であり、まだまだ時間を要するところでもあります。地域の水質環境は神埼地区との環境差が見受けられ、住民からは同一環境をとる意見が寄せられ、自治体としてのこれからの課題であります。

また、当時、神埼地区では、公共下水道と農業集落排水での整備地域が隣接するのに、若干不合理な整備工事を余儀なくせざるを得ないこともあつたかと思いますが、両下水の一体処理を許容されるようになった今日、低額費用にて農業集落排水と合体処理でできる管布設を実施していた事に納得とある種の満足感を覚える次第です。

さて、日本下水道事業団研修センターでの研修では、下水道管布設に伴う現場の測量、必要な部材の選定積算を行ったことは記憶にあり、事業推進の合理的思考理論と一連の事務作業を経験したことが、今の私にとって掛け替えのないものとなっております。私は、市政運営全般に及ぶ事務・



国の名勝「九年庵」

事業内容を認識する方法として、積み上げ的分析でもって思考し、内容の適否や妥当性の判断を行っています。これは研修センターの研修を受講できたお陰であり、有り難く感謝するところでもあります。

爾来今日においても、全国の下水道整備の完全性を求め、住民の生活文化の向上に寄与されていることに心から敬意を表しますとともに、関係者各位の皆様のお祈念申し上げます、私の拙い寄稿文とさせていただきます。

令和元年11月29日記

研修生から特別講師の 感謝思い

宮城県松島町

副町長

熊谷 清一

(S 60・H 6年度生)



この度、昭和47年から開始された日本下水道事業団の受講生が、今年で75・000人を達成されたというお話を聞き、受講生の一人として心よりお祝い申し上げます。

私を含む松島町の職員に様々な面でご指導賜りました、渡邊先生はじめ研修センターの先生方や関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。

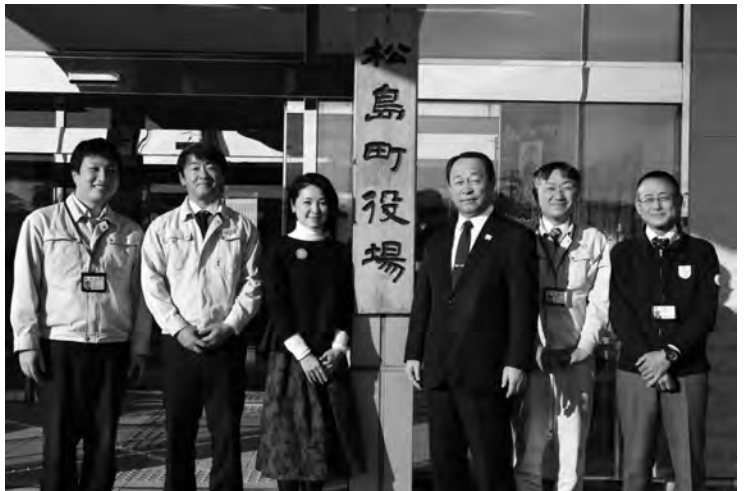
私は、昭和60年度に松島町で最初の下水道事業団研修生として「実施設計コース管きよII」に参加させて頂きました。

松島町は、単独公共下水道で処理場がまだ稼働していない時期での研修参加でありました。研修に参加し、聞くこと話すことが、自分としては未知の世界に入ったような気がしました。三週間の研修でありましたがルームメイトの協力のお陰で、思い出に残る研修でありました。

その後二回ほど受講した研修は精神的にゆとりのあるものになりました。

私の研修参加を皮切りに、以後多くの松島町役場職員が日本下水道事業団事業団研修に参加し、現在の松島町の下水道事業を支える職員となったことは言うまでもありません。改めて皆様にご指導を賜りました諸先生をはじめ関係職員の皆様に感謝申し上げます。

あの「東日本大震災」からま



熊谷副町長と受講生の皆さん

比べ大変充実した施設になっており、昨今の研修生を羨ましく思いました。

今回の特別講義のテーマは「危機を乗り越え：今なお残る爪痕」ということで、下水道事業の技術者に向けた内容を中心に、東日本大震災のよ

うな大規模な災害が発生した際にまず何をしなければならぬか、或いは自分が置かれている状況からどう行動するかの参考になればとの思いで話させていただきました。

例えば、道路幅員が4mで両側に住宅が建ち並んでいる。道路には下水道管のサービスタブが埋設され40m毎にマンホールがある。地震によりマンホールは浮き上がり、下水管理設備は沈没し車の通行は不可能です。場所によってはブロック塀が倒壊して道路をふさいでいる。このような状況が深夜で停電そして30〜40分で津波が到達す

るような場合、どのような行動をとるべきか、私なりの体験をふまえ研修生の皆さまにお伝えさせて頂きました。技術者である前に地域の一住民であることを常に考えて自分が執るべき行動をシミュレーションしてほしいと思います。

大規模な自然災害は日本各地に限らず様々な形で世界各地で発生しております。

自助・共助・公助と各々の状況判断をし、行政マンとして日々精進していただければと思います。併せて、研修に参加されている皆様とのお縁を大事にしてほしいと思います。

今回の特別講義でお世話になりました松島町と同じ日本三景のひとつ広島県廿日市の野原田副市長さん、井上晋一専門員さんに重ねて御礼申し上げますと共に、このように素晴らしい機会を与えて下さいました事業団研修センターの松村所長、渡邊良彦特任教授、青木実教授をはじめ多くの関係者の皆様から感謝を申し上げます。

結びに、日本下水道事業団研修センターの益々のご発展と、全国の「みずのわ」会員皆様のご健勝ご活躍を祈念いたします。

「続く、みずの「わ」」

生駒市 総務部 契約検査課

主幹 紀之國 暁

(H15・H25年度生)



管きよ設計Ⅱ(第2回)の研修を受講しました。

1度目の認可研修では、慣れない集団生活や脂分が多い食堂のメニューにとまどったのを覚えていきます。しかし、2週間の研修生活で徐々に研修生活に馴染んでいきました(食生活は馴染めませんでした)。冬場の研修でしたので、寮室から富士山がとても美しく見えました。多くのコースが集中した期間であり、夜中に管きよI研修の若手男性研修生が寮内を元気に走り回っていました。

渡邊特任教授から2度目の「研修みずのわ」への原稿依頼をいただき、日本下水道事業団研修の思い出などを寄稿させていただきました。1度目の原稿依頼は平成25年12月、それから6年を経過して再度ご依頼をいただき、お礼申し上げます。また、研修生が7万5千人を達成し、おめでとうございます。

私の事業団研修受講歴は2回です。平成15年度に実施された「計画設計コース 認可」、そして渡邊先生との出会いとなった平成25年度「実施設計コース



新マンホールふた、生駒市の魅力が詰まった1枚となっています。

2度目の管きよII研修で驚いたことは、女性の大浴場が廃止されていたことです(第47号の投稿で記載させていただきました)。

それでも、2度目は勝手知った場所、同じコースの女性受講生と1つの寮室で3週間近くの期間を三姉妹(?)のように生活していました。H市のHちゃん、K市のYさん、今でも連絡を取り合っています。設計や積算の情報交換で勉強になるなあと感じたり、地元の自慢の逸品を送ってもらったり、いつもありがとうございます!コース最年長のS市のSさん、1年以上にわたる会計検査・事後調査を受検した際は、多くの資料を送っていただき助かりました!

研修を離れても、ふいに渡邊先生から連絡があったり、私が関東方面を訪れる際に戸田に立ち寄り、事業団研修を通じた「わ」は続いています。

「研修みずのわ」第52号を読ませていただくこと、新寮室棟(仮称)の建設が予定されていること。より快適な研修生活を送れる施設になる

のではないかと、今後の研修生の皆様が羨ましいです。

せっかくの機会ですので、生駒市の新デザインマンホールについて紹介させていただきます。

生駒市のイメージをアンケート調査した結果、多数を占めた「生駒山」をメインテーマとしたデザイン案を7案作成し、「新!マンホールふたデザイン決定総選挙」を実施しました。投票総数は10,941票にのぼり、得票数は2,728票、得票率は約25%で見事1位に輝



「新!マンホールふたデザイン総選挙」PRを、近鉄生駒駅前で行いました。

いた現在のデザインが採用されました。

現在のデザインは、電波塔が特徴的な「生駒山」を背景に、市の公式キャラクター「たけまるくん」や日本最初の営業用ケーブルカーなど、生駒市の魅力が詰まったマンホールとなっています。

生駒市では、団塊世代の大量退職や世代交替に伴い、専門分野の基礎知識の研修が急務となっています。私の現状は、事業団研修のテキストなどを大いに活用し技術職員向けの研修を企画・実施し、自ら講師も担当しております。いつか、事業団研修の講師とは言いませんが、講師補助としてお声がけいただけるよう(夢です)自己研鑽を継続する所存です。

最後になりましたが、研修でお世話になりました渡邊先生をはじめ日本下水道事業団の皆様、同期研修生の皆様、研修中業務を引き継いでいただいた皆様、新マンホールデザインに関する資料を提供していただいた生駒市下水道課の皆様にご挨拶申し上げます。皆様のおかげです。全国の皆様、またお逢いしましょう!

研修生7万5千人達成によせて（研修への要望・期待等—研修生の声—）

日本下水道事業団
研修に参加して

クリアウォーターOSAKA株式会社 事業部技術管理課

大野 慎 太郎
（R1年度生）



術系職員のための公営企業会計（入門編）の3つの研修に参加させて頂き、これらの研修で教えて頂いたことや学んだことを糧に日々業務に励んでおります。

私は2018年度にクリアウォーターOSAKA株式会社（以下CWOと表記）に入社し、現在2年目となります。そこで下水道事業全般に関する知識を深めるため、日本下水道事業団主催の研修に参加させて頂くこととなりました。今年度は、①「計画設計コース 下水道事業入門」②「計画設計コース アセットマネジメント・ストックマネジメント（入門編）」③「技

CWOは2016年7月1日に設立され、2017年4月1日より大阪市発注の下水道施設の包括的維持管理業務を開始しました。社員の6割以上が大阪市から転籍した社員で構成されており、大阪市の技術とノウハウを引き継ぎ、大阪市の管路、ポンプ場、処理場の運転・維持管理を包括的に行っております。

維持管理費や改築更新需要の増大、技術者不足に伴う運営・管理能力の低下といった課題に直面しており、持続可能な下水道事業経営に黄信号が点灯し始めているといっても過言ではありません。CWOはこれらの課題に対するソリューションの先駆けとしてこれまで培ってきた経験と技術、ノウハウを最大限に活用し、下水道事業を総合的に運営・維持管理できる企業として持続可能な下水道事業の実現に貢献してまいります。

今回は、今年度参加した3つの研修の中でも特に自分にとって勉強になった「計画設計コース 下水道事業入門」について研修の感想を寄稿させて頂きました。

「計画設計コース 下水道事業入門」では下水道事業の概説・下水道法の変遷や用語の定義、管渠の基礎知識として管渠の設計手順や流量計算の確認、処理施設の基礎知識として水処理の基本や水処理方式等を教えて頂きました。CWOでは維持管理が主な業務なので、計画や設計

といった業務内容は、初めて聞くものもありましたが、考え方や理論などがわかりやすく、大変有意義な講義でした。3日目は外部の施設研修として東京都下水道サービス株式会社が運営する下水道技術実習センターと有明水再生センターへ施設見学に伺いました。特に下水道技術実習センターでは管路内水中歩行モデルや人孔モデル入坑体験など、このセンターでしかできないような体験をさせて頂き、大変印象に残っております。

また、どの研修においても共通していたのは「同じ志を持った仲間と出会えたこと」です。本研修に参加しなければ出会えなかったであろう人達と仕事の相談をしたり、下水道事業の将来について意見を交わしたり、また研修時間



2019年5月21日～24日 下水道事業入門 集合写真

研修生7万5千人達成に よせて

栗原市上下水道部経営課

佐藤 仁美

(H30・R1年度生)



この度は、日本下水道事業団
研修生7万5千人達成、誠にお
めでとうございます。研修生
7万5千人のひとりとして心か
らお祝いを申し上げます。

私は、下水道事業に携わり2
年目ですが、日本下水道事業団
研修の経営コース「下水道の経
営」及び「消費税」と受講する
機会に恵まれました。

研修前は、下水道用語もわか
らない私が、4日間の研修を無
事に修了できるのか不安でした
が、所属先輩の「下水道担当に
なったら、戸田へ行ったほうが

いいよ」の一言に背中を押され、
戸田へ行けば加藤教授のエネル
ギッシュな講義にまた背中を押
され、初心者の私が研修を終え
る頃には「下水道っておもしろ
い」という感覚になりました。

しかし、知れば知るほど尽き
ることのない疑問や課題……。特
に、消費税の研修では、「一読
難解、二読 誤解、三読 不
可解」との言葉とともに、大量
の消費税算定ミスを報じる新聞
記事が衝撃でありました。

下水道事業が長い年月をかけ
て作り上げてきたところに、ポ
ンと飛び込んだ私が、簡単に下
水道経営を理解することはでき
ませんが、疑問を投げかければ、
研修を共にした仲間にも助けら
れながら、下水道事務屋2年生を
務めております。

さて、栗原市は宮城県北に位
置し、県内一の面積を誇る田

園都市です。市内北部には1,
626メートルの栗駒山がそび
え、この時期はラムサール条約
に登録されている伊豆沼・内沼
から早朝に飛び立つ数万羽のマ
ガンの光景が圧巻です。

そんな栗原市は、平成17年に
全国的にも稀な10町村が合併し
誕生しました。多分にご想像の
とおり、下水道事情も旧町村で
多様であり、現在、公共下水道、
特定環境保全公共下水道、農業
集落排水施設、特定地域生活排
水処理施設、個別排水処理施設
と5つの事業を運営しております。

また、令和2年4月には公営
企業会計への移行を予定してお
り、これまでの官庁会計との相
違や企業会計特有のルールに戸
惑いながらも研修資料を片手に
準備を進めているところです。
加藤教授から「移行は仕事のや
り方を変えるチャンスである」
と教わりました。このタイミン
グで下水道事業に携わることに
感謝をしつつ、しかし、移行に

は大変な労力が必要であること
は事実です。自治体財政も一層
厳しい状況に置かれる中、整備
中心から維持管理にシフトし、
経営改善は容易ではありません
が、この機会をもって見直し、

数年後、本市の下水道事業が適
正な事務執行のもと、健全に運
営されていることを願います。
最後になりますが、加藤教授
をはじめ、本研修でお世話にな
りました皆様、そして日本下水
道事業団研修へ送り出していた

だいた所属の皆様から感謝
を申し上げるとともに、日本下
水道事業団の更なる発展と、下
水道事業に関わる皆様のご活躍
を祈念し、お祝いの言葉とさせ
ていただきます。

下水道を通じた好循環を 未来へ

熊本県土木部河川港湾局河川課

参事

池川 裕和

(H17年度生)



「研修みずのわ」への原稿依頼を
賜りまして、私が生まれた年に
創刊された歴史ある研修誌であ
り、大変恐縮なことではござい
ますがお受けいたしました。

はじめに、「研修みずのわ」
第五十三号の発行大変嬉しく存
じます。私は平成十七年に実施
設計コース管きよ設計資格者講
習「総合」を受講しました。今
回、渡邊良彦特任教授より、「研

修みずのわ」において、平成
二八年に発生しました熊本地震
におきましては、下水道関係者
をはじめ、全国から多くの方々
に熊本の復旧・復興にご支援い
ただき、感謝とともに厚く御礼
申し上げます。私は、前震、本
震ともに熊本県庁舎本館の十二
階で受けました。外に逃げるこ



平成17年度実施設計コース管きょ設計資格者講習〔総合〕開講式

ともできず、絶望感と自然の力に対する無力感が支配したことを鮮明に記憶しています。熊本地震発生から、早いもので4年を迎えようとしております。おかげさまで熊本地震からの復旧復興は確実に進み、熊本の魅力が戻って参りました。是非熊本へお越し頂ければと思います。さて、平成十七年に研修を受

講しましたが、当時、大阪市より出向されていた二ノ形助教に管きょ設計をご指導いただき、充実した三週間を過ごしました。また、この研修に際し、私が所属していた下水道課の先輩、松川さんの紹介で当時、研修企画課長をされていた渡邊特任教授との末永いお付き合いが始まりました。研修期間中、研修生以外の下水道に携わる周辺自治体の方々とも交流させて頂き、予想以上の研修成果を得ることができました。研修から十五年経ちますが、交流は毎年続いています。

現在、みずのわ熊本会は熊本市上水道局の岡本さんや渡邊さんのお計らいにより、渡邊特任教授の熊本入りに合わせ開催されており、毎年参加させて頂いておられます。渡邊特任教授との親睦は基より、下水

道を通じた県内市町村の皆様との交流に充実したひと時を大変楽しく過ごさせて頂いておられます。最後に、自然環境と共存すべく下水道を促進、維持していくためには、今後も下水道技術の研鑽は必要であると思えます。研修センターは効率的かつ効果

的に研鑽できる施設としてこれからは重宝されることと期待しています。下水道を通じて、また、下水道事業団研修を通じて、技術の研鑽だけでなく人と出会い、人と繋がる「みずのわ」。受講から十五年たった今でも身近に感じていますし、仕事、プライベートにおいても教科書的

な存在として繋がりが続いています。まさに、終わりになき研修です。下水道に携わる人々が、全国各地で活躍される源を今後も下水道事業団研修で創り続けてほしいと願っています。下水道事業団の益々のご発展と、皆様方のご多幸を祈念いたします。

永く・繋がり・結び合う 「みずのわ」に

公益財団法人 東京都都市づくり公社
下水道部 設計課 事業推進係

主任 木下 明生

(H18・H23・H29年度生)



して、このような記念に寄稿させて頂いた機会をいただき、お声がけいただきました渡邊先生に感謝いたします。

研修について思い返しますと、初めて参加させていただきましたのは平成18年度の管きょ設計資格者講習でした。2週間もの泊まり込みでの研修に、学生時代のような合宿の楽しさを感じる一方で、連日にわたる授業を理解することができるのかと緊

張を強く感じたのを覚えております。しかし、日々の授業では初歩的な質問にも丁寧に答えただき理解しやすく、教わる言葉が日を経るにしたがい数珠つながりとなり、最終日には微かな自信を持つことができたのも覚えております。

研修のイメージであるのは、テキストの説明や解説以外で聞きすることができた、先生方の実体験や関係者へのヒアリングについてです。設計や工事の思想だけでなく、当時は考えが及ばなかった維持管理の着眼点などからの「生きた考え」を私見も含めてお聞きすることができたのは、本当に意味ある・価値あるものでした。また、得難い機会となったのは、研修後に様々な場所で行われた懇親会でした。出身や経験が異なる方々

と、日常業務の取り組みや些細な質問に懸念の課題をと、気兼ねなく話し合い相談することが出来る場があったことは、現在におけるネットワークの礎となり貴重な財産となりました。

最近では、管きよ設計Ⅱ講習で講師をさせていただいております。これまで経験したことや感じたことを合わせて伝えることを心がけ、過ぎし日に感じただけの微かな自信を持っていただけるように懸命に取り組んでおります。その際のデイスカッションにおいて、潮流に合わせた課題解決の難しさを痛感しております。内容は設計や工事はもとより、自然影響・修繕と改築・新材料・地域特性など多岐にわたり、見聞きしたことのない話題もあり、より広範となっている下水道事業の縮図であるようにも感じております。

下水道に関わる動静は、大雨などの災害や持続可能な開発目標など、めまぐるしく変化をしております。変質し続ける社会構造に応じて、より多様で急務となる事業に迅速に向き合うためには、講義で学習する基本知識・最新知見に加え、懇親会で知り合う他団体の方々との意見交換が有用であり、研修の意義

はとても大きいと考えております。さらには、「みずのわ」を通して、未来にわたり環となり結び合い補完し合える関係を築くことができればと深く願っております。

最後になりますが、研修でお世話になりました渡邊先生・明石先生・本多先生をはじめ、日本下水道事業団の皆様、諸先生方、研修同期受講生の方々、あらためて感謝を申し上げますとともに、ますますのご活躍とご発展をお祈りしております。

※公益財団法人東京都都市づくり公社は、行政代行型公益法人として主に都の多摩地域の都市基盤整備を中心に、各地方自治体が行う土地区画整理事業・下水道事業を受託し、道路・公園・下水道等、都市の基礎的社会資本の整備に貢献しております。下水道事業は、昭和49年度から受託し、汚水管整備を中心に2、635 kmを超える管きよの新設、さらに、雨水対策（浸水対策）・合流式下水道改善耐震化、ストックマネジメント、普及対策、維持管理業務、建設サイクルの各事業に取り組んでおります。

事業団研修の思い出

富士宮市役所 水道部 下水道課 建設係

技師 村松 和成

(H28・H29・H30年度生)



この度は、「研修みずのわ」の執筆にお声をかけていただき誠にありがとうございます。渡邊良彦特任教授から電話をいただき、大変名誉なことであるので快く引き受けさせていただきました。依頼を引き受けた時はまだ実感がありませんでしたが、正式な依頼が来てから実感が湧き、身の引き締まる思いになりました。普段文章が書くのが苦手なので乱雑になっている可能性がありますが、御了承下さい。

工法」、平成30年度に経営コース「企業会計―資産調査の履行確認・会計システムの導入―」の計5回参加させていただきました。その中でも管きよ設計Ⅱと企業会計の研修が印象に残っております。

その前に当市の紹介と下水道事業の現状について書かせていただきます。当市は静岡県の東部に位置しています。富士宮市の北部には、世界遺産に登録さ

私は平成27年4月に富士宮市役所に入庁し、土木技術職として下水道課建設係に配属されま

した。その前は民間の建設コンサルタント会社で4年間働いていました。現在の主な仕事は、下水道工事の設計積算及び施工管理、土質調査、管渠清掃、測量業務などいわゆる万事屋です。下水道事業団研修にはこれまで平成27年度に計画設計コース「改正下水道法に基づく事業計画の策定・変更に係る研修」、平成28年度に実施設計コース「管きよ設計Ⅱ」、平成29年度に経営コース「企業会計―移行の準備と手続き―」と実施設計コース「推進



市役所7階からの富士山



平成28年度実施設計コース「管きよ設計II」開講式



平成29年度実施設計コース「推進工法」開講式



平成30年度経営コース「企業会計－資産調査の履行確認・会計システムの導入－」開講式



デザインマンホール蓋

れている富士山及び構成施設が6つあります。市の中心部には全国の浅間神社の総本宮である富士山本宮浅間大社があります。また、B級グルメで話題となりました「富士宮やきそば」を市内のいたるところで味わうことができます。市の北部では農業や酪農が盛んに行われており、自然環境豊かな街です。当市の下水道事業は、昭和45年4月から管渠建設工事が始まり、昭和57年4月に供用開始しました。今後は下水道管渠の整備を行ないながら、長寿命化や管更生をしていく時期になりつつあります。また、今年度初めてデ

ザインマンホール蓋の作製を行ないました。デザインマンホール蓋は全国的に注目されています。是非多くの皆様に富士宮市に来ていただき、実物を見ていただきたいと思います。

研修生活についてですが、管きよ設計IIでは約3週間と長い研修であったため、最初は上手くやっけていけるか不安でした。しかし、研修が始まってみると同じ部屋の方や周りの方と仲良くなることができ、あつという間に研修が終わったような感じがしました。研修中の週末には、みんなで東京観光に出かけたり有意義な研修生活を送りま

した。グループディスカッションでは、各自自治体によって問題の解決方法が違うのでも良い勉強になりました。管きよ設計IIでは最後に修了テストがあります。同じ部屋の方やグループのみんなと勉強を行ない、満点になるまで幾度となく問題を解きました。その成果もあり、無事に全員修了テストを合格することができました。企業会計の研修では、加藤壮一教授のパワフルでエネルギーシユな授業に圧倒されました。朝眠くても眠気なんて無くなってしまい、授業にのめり込んでいました。授業が終わった後も意見交換会

があり、全国各自治体の状況や取り組み方について情報を交換しました。管きよ設計IIを受講した後に再び研修で訪れた際には、たびたび渡邊良彦特任教授にお声をかけていただき、他コースの研修生や講師の方と人脈を広げる良い機会になりました。

最後に、渡邊良彦特任教授及び加藤壮一教授をはじめ各研修でお世話になりました講師の皆様、一緒に研修を受けた受講生の皆様に感謝申し上げます。日本下水道事業団の発展と研修生皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。



渡邊先生との思いで

研修生7万5千人達成に よせて

弘前市上下水道部下水道施設課

赤坂 嘉宣

(H28・H29・H30年度生)



この度、日本下水道事業団研修生が7万5千人を達成されたことを研修生の一人として心からお祝い申し上げます。また、「研修みずのわ」への執筆にお声がけいただき、誠にありがとうございます。ここでは平成30年10月に受講した「実施設計コース処理場設計II」について当時の記憶を掘り起こしながら書かせていただきます。

まず弘前市について、弘前藩の城下町として発展し、津軽地方の中心都市の役割を担ってきました。市内中心部にある弘前

公園には4月下旬から5月上旬にかけて「弘前さくらまつり」が開催され、現存12天守のうちの一つである弘前城と2千6百本の桜が毎年2百万人以上の来園者を迎えます。また、りんごの生産量が日本一であり、当市のマンホール蓋にもりんごのデザインが数多く採用されています。

下水道事業におきましては、昭和48年に単独公共下水の供用を開始。平成27年より特定環境保全公共下水道の処理施設を新たに建設しており、私は平成30年度より電気設備工事を担当しています。平成22年の入庁以来、処理施設の維持管理業務や改築工事に関わってきたのですが、新設工事については経験がなく、知識や事例を学びたいと思ったことが受講のきっかけです。

研修期間は休日を含めて12日間。過去に2度研修に参加させていただいたのですが、今回が最も長い研修期間でした。第三子が産まれてまだ半年ほどであり、家庭を離れることが心配でしたが、研修申込から間もなく早矢仕先生より副幹事要請のお電話があり、二重の心配事に頭を抱えたことを今でも覚えています。

研修の内容については関連法規や水理学、構造物及び設備の設計など、計画段階から施工完了までに必要な知識を学べる教科が目白押しでした。もちろん自分の職種とは関係のないような教科もありましたが、このような機会であれば学ぶことができませので、貴重な体験であったと感じています。その中でも特に印象に残っている講義は、施設配置計画を各班で検討し、平面図上に表したものを発表したことです。基礎となる敷地面積や諸条件は同じなのですが、各班で考えたコンセプトの違いなどから施設配置が全く異なっていて、各班の発表が終わるとみんなで良いところ悪いところを話し合い、盛り上がりまりました。

夜になると、全国各地の自治

体から集まった研修生がご当地名産品や銘酒を持ち寄り、各々の下水道事業における課題や特徴など、講義だけでは知り得ることのできないアツい話を毎日のように紙コップ片手に話しました。気の合う仲間にも恵まれ、楽しく過ごすことができたためでしょうか、研修が終わるころにはみんなで飲み干した四合瓶や一升瓶がズラリと並べられ、壮観な光景でした。

最後となりますが、施設老朽化や人口減少による社会や地域の変化に対して下水道も統廃合による改築、広域維持管理方式など多様化して対応していかなければなりません。J S研修センターにはこれらの課題をフォローする研修を期待するとともに、今後も全国の下水道に携わる方々のネットワークを構築する場となることを期待しております。



平成30年度実施設計コース「処理場設計II」開講式

研修生7万5千人達成を祝して 「人と人の繋がりに感謝」

吹田市下水道部水循環室

杉澤 秀幸
(R1年度生)



はじめに、研修生7万5千人の達成、誠におめでとうございます。また、機関誌「研修みずのわ」への寄稿のお声を掛けて頂いた長澤先生に感謝申し上げます。

私は、今回初めて事業団研修を受講させていただきました。工事監督管理の経験が少なく、基礎知識を高めることを目的に「工事管理」を選択しました。

受講した「工事管理」は約2週間と長丁場のスケジュールであり、寮での共同生活ということを知り、緊張と不安の方が大

きく、ほんの少しのワクワク感を胸に秘めながら、研修センターに辿り着いたことを鮮明に憶えています。私の部屋は、同年代が集まる4人部屋であり、仲間とすぐに打ち解けることができ、抱いていた不安が消えました。部屋の仲間との会話が弾みきっかけとなったのは、マンホールカードでした。名刺交換した後に渡すと、「私も持つてきています」と予想以上にテンションが上がリ、良いスタートが切れました。マンホールカードをきっかけとして、お互いの自治体の特徴や名産など、その後の会話がどんどん展開していききました。是非、マンホールカードを発行している自治体から参加する際には、持ち物リストに入れることをお勧めします。

「工事管理」の研修は、下水道関連法規や地盤改良・土留め

工法の施工管理、工事に伴う補償・住民対応、コンクリートの配合設計、土質試験の実習など、工事を適切に管理するための様々な知識を学びました。コンクリート及び土質試験の実習では、コンクリートの配合や供試体作成を通じて、改めて品質管理の重要性を認識しました。講義を中心とした研修内容の中で、現地視察が組み込まれており、会計検査院の研修所施設での現地研修がありました。この

施設では、正しい施工例と不適切な施工例の実物大の構造物が設置されており、不適切な構造物を実際に目にするのができ、実務に直結する貴重な経験をさせていただきました。

研修生活では、長澤先生をはじめ、幅広い年齢層の20人の研修生とともに、充実した2週間を過ごすことができました。研修初日の懇親会を皮切りに、講義終了後の談話室でのコミュニケーション、グループディスカッションを

通じた同部屋の仲間との熱くなりすぎた議論など、日に日に親睦が深まっています。また、長澤先生の研修をより良くしようとする気持ちが生かされ、模倣会計検査を実施するなどの研修内容の工夫や目新しい現地視察を取り入

最後にになりましたが、長澤先生をはじめ本研修でお世話になりました講師の皆様、日本下水道事業団研修の関係者の皆様、本研修の受講生の皆様に心より感謝を申し上げます。研修センターの益々の発展と関係者の皆様の更なるご活躍をお祈り申し上げます。

(令元「工事管理」受講)



研修の集合写真



マンホールカード



宮山福会（みやふくかい）の 新たなつながり&令和初の 「宮山福会」に参加して!!

福島県東白川郡鮫川村地域整備課

主任技師 平田 太良

(H25年度生)

埼玉県 越谷県土整備事務所 道路環境担当

担当課長 佐々木 健太郎

(H23年度生・(元)准教授)



(第1部)

私が事業団研修に参加したのは、福島県須賀川市に勤めて2年目の平成25年6月の管きょ設計Ⅱでした。役職を承っており打ち合わせのため早めに行き、渡邊先生とお会いしました。事前にお電話にてお話ししており

ましたが、電話での優しい感じそのままの方だったので、とても接しやすく落ち着いてお話しできたことを覚えています。初めての長期研修ということもあり不安がありましたが、研修が始まると全国から集まった方々と講義や現場見学、懇親会をと

おして交流を深めることができ、とても充実した研修となりました。

現在は勝手ながら須賀川市を退職し、同じ福島県の鮫川村に勤めています。農業集落排水の整備が一通り完了しており、私自身も下水道関係とはしばらく離れているため、研修で学んだことを活かせる機会が無く残念でなりません。

宮山福会は宮城県、山形県、福島県、他にも岩手県、関東地区、京都府長岡京市の事業団研修生OBの方々による伝統ある集まりとお聞きしております。

そのような歴史ある宮山福会に、今回初めて参加させて頂きました。今まで都合がつかず参加を見送っていましたが、福島県での開催であり、鮫川村からも比較的近い「母畑温泉八幡屋」が会場だったため、遅れながらも参加させて頂きました。渡邊先生とは久々の再開でしたが、依然と変わらず優しく接して頂きました。参加者の方々は錚々たる顔ぶれでしたが、事業団という共通の繋がりが、とても気さくに話してくださり、とても楽しい時間を過ごすことができました。遅れずに最初から参加したかったも

のです。

事業団研修の繋がりにさらに大きな新たな繋がりを持つことができ、とても光栄に思います。この繋がりを人生の宝にしつつ、最後になりますが、日本下水道事業団研修センターの益々の御発展と全国の「みずのわ」会員の皆様の御健勝・御活躍を心より御祈り申し上げます。

(第2部)

はじめに、「研修みずのわ」への執筆にお声かけいただき、誠にありがとうございます。正直なところ文章が苦手なため、渡邊先生から原稿依頼をいただき戸惑いましたが、光栄なことと思

い執筆させて頂きました。私は、2年間（平成27年度～平成28年度）埼玉県から出向しておりました。在任中、研修センターの皆様には大変よくしていただき、本当に楽しい2年間を過ごすことができました。そして、渡邊先生には講師の方や研修生の方との触れ合いを通じて、「人と人の繋がりの大切さ」を教えていただきました。様々な方々と触れ合う中で「宮山福

会」を通じて、自分自身の成長や、同僚との交流を深めることができ、とても充実した研修となりました。



宮山福会 母畑温泉八幡屋(集合写真)

二日目の宴は、月山志津温泉「旅館 仙臺屋(せんだいや)」を舞台に12名で行われました。「仙臺屋」は渡邊先生の常宿になっており、前々から「とてもいい宿だよ」と聞いていたので、とても楽しみにしておりました。車を降りると特徴的なロッシ風の建物(室内も部屋毎にデザインが異なりどれも洒落でした)が現れ、笑顔の女将さんが出迎えてくれました。(とて

も熱い)風呂に入りさっぱりとした後、二日目の夜が始まりました。「仙臺屋」の集いに初参加という3名に石山様(米沢市)から「歓迎の一言」をそれぞれいただき、昨日に引き続き交流を深めました。二次会の途中、女将さんも加わり大いに盛り上がりました。最終日は、玄関前で記念写真を撮り、女将さん達に見送られ出発。恒例の店で昼食を取り、お土産(そば&うどん、煎餅)を購入し、山形駅より岐路に着きました。改めて振り返ってみてもあつという間の3日間でした。渡邊先生を中心とした「宮山福会」の「わ」の中に加わり、皆様と共に楽しい時間を過ごせたことをこの場を借りて感謝申し上げますと思います。大変お世話になりました。ありがとうございます。



宮山福会 仙臺屋玄関前にて

会」の存在を知りました。「年に一度、(宮城県・山形県・福島県・多数地域の)渡邊先生ゆかりの方々が集まる会合とは一体どのようなものだろうか?」と興味を持ったことを覚えていいます。

「宮山福会」に誘っていただきました。しかし、残念ながら諸事情により参加することができませんでした。今回は、念願叶い、初の「宮山福会」参加となりました。

令和初となる「宮山福会」は、70名近くいる中で、風水害の影響を受けながらも17名の方が参加され、福島県母畑温泉「八幡屋」にて開催されました。新参者ということもあり緊張して臨みましたが、事務局の青木様(須賀川市)、相楽様(須賀川市)をはじめ、お世話になった方が多く、すぐに馴染むことができました。屋上にある開放的な露天風呂でゆっくり体を温めた後、開催された一次会では、自己紹介を経て様々な話題で盛り上がりました。特に大鹿様(日本下水道事業団)から報告のあった「研修センター」の最近の出来事は最もボルテージが上がりました。その後の二次会でも、さらに話が進み日付が変わる頃まで宴は続きました。

最後になりましたが、渡邊先生はじめ日本下水道事業団研修センターの皆さまの益々のご健勝・ご活躍を心よりお祈り申し上げます。



宮山福会 月山志津温泉仙臺屋(集合写真)

山口みずのわ会

防府市土木都市建設部道路課
法定外公物管理室

管理係長

市村 太郎

(H20年度生)



「研修みずのわ」第53号発刊、誠にありがとうございます。並びに研修生7万5千人達成重ねてお祝い申し上げます。

この度、筆不精な私に渡邊良彦先生から寄稿依頼のお声を掛けていただき、僣越ではございますが拙文執筆させていただきます。

私が勤務する防府市は山口県の中南部、一級河川佐波川の下流に開け、県内最大の平野を持ち周防灘（瀬戸内海）に面しており、人口は約11万6千人、日本最古の天満宮である防府天満

宮、周防の国府跡など多くの文化財が残る歴史薫る地方都市です。夏は海上からのおだやかな風が吹き、冬はその風が中国山地でさえぎられる瀬戸内海特有の気候に恵まれています。5月中旬から9月中旬まで食べごろを迎える天神鱧（てんじんはも）は生命力が強く、荒々しい性格からは想像できないくらい、真つ白な鱧の身は、繊細で上品な味です。特に、梅雨の後の鱧は脂がのって骨がやわらかくなり最高です。ぜひ、防府市にお寄りくださり、ご賞味いただくと幸いです。

日本下水道事業団研修センターとのご縁は渡邊先生の平成20年度実施設計コース管きよ設計Ⅱを受講させていただいたのが始まりで、同じ部屋であった愛知県碧南市の糟さん、千葉県船橋市の高安さん、長野県千曲

市の齊木さん達と楽しい時間を過ごしたことを記憶しています。受講後も年賀状のやり取りさせていただいた方もいらっしゃいました。あれは確か平成23年の年末、受講時幹事をされた大分県津久見市の宮近さんよりメールが届き、内容は岩手県陸前高田市の吉田さんが職務中に東日本大震災により被災され、遺体が発見されていないというものでした。受講当時、談話室で吉田さんと少しですが会話をしたのを覚えており、もうじき子供が生まれると言われたのを記憶していました。奥様と子供さんはご無事とのことで、渡邊先生と同窓生有志の方がご家族に悔やみを届けていただけるとのことから、お悔やみを届けていただきました。知り合いが震災で亡くなった経験が無く、吉田さんと同様に幼い子供がいる私にとって子供の成長を見届けられないことはさぞかし無念であったと訃報を受けてしばらくの間は自分が同じような状況ならどのように行動したか、答えが出る訳がないのに自問自答を繰り返し気持ちが悪く落ち込む日々が続きました。その後、お悔やみを届けていただいた方より吉田さんの奥様からの手紙を

いただき、読むとご家族も少しずつ前に進んでいらつしやると感じ、私も自分の家族に出来ることを考え始め、落ち込んだ気持ちも立ち直ることができました。この経験がひとつのきっかけとなり、防災士及び被災地危険度判定士（調整員）を取得し、平成28年熊本地震では熊本県益城町で被災地危険度判定士として微力ながら活動させていただきました。

それでは、渡邊先生をお迎えして開催させていただいている「山口みずのわ会」について説明いたします。渡邊先生を慕って山口県内の事業団研修同窓生が集って受講時の笑い話や近況報告、そして渡邊先生から日頃耳にしない興味深いお話をいただいで盛り上がっております。このように事業団研修同窓生が集えるのも渡邊先生のお人柄あってこそ、このような機会を作っていただき感謝申し上げます。この度の「山口みずのわ会2019」は深く語り合いたいとのことから少人数で開催することにになり、山口県の森山様、山口市の中山様、柳井市の田原様、防府市の友景部次長、磯金主幹そして私も参加させていただき有意義な時間を過ごすこと

ができました。今回は大勢で渡邊先生をお迎えしたいと考えておりますので、参加したい方は是非ご連絡ください。最後にありますが、日本下水道事業団研修センターの益々の御発展と研修生皆様の御健勝を心より祈念申し上げます。

山口みずのわ会（集合写真）



山口みずのわ会（集合写真）

福岡みずのわ会

福岡市道路下水道局建設部西部下水道課

月森 光一

(H29年度生)



この度、研修会報「みずのわ」に寄稿させて頂くことを大変光栄に思います。

私は、平成29年度に下水道事業団研修の「実施設計コース管きょ設計II」を受講しました。研修では約3週間に渡り、設計・積算を学びました。特に推進工法、立坑、他都市での施工事例については業務でも活かせることが多く、現場見学ではシールド工事の現場に行くなど、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

また、研修最終日のオリエンテーションで渡邊先生から贈っ

ていただいた「一期一会 人は宝なり」という言葉が今でも印象深くに残っており、この研修に参加された他都市の方々とも今でも連絡を取り合う交流が続いております。

研修が終わり、職場の先輩とお互いに研修での思い出話に花を咲かせていたところ、先輩から「毎年3月頃、下水道事業団の研修に参加した経験のある方々が渡邊先生を囲む懇親会、『福岡みずのわ会』を開催している」と教えていただきました。その話を伺った時、研修中に渡邊先生がよくおっしゃっていた「縁」という言葉を思い出しました。渡邊先生には研修中、研修生同士の縁だけではなく、講師の方々との縁もつなげていただき、講師の方々には帰福後も業務内容で相談させていたいただくなど、多くのことを学ばせていただきました。これも、縁を広

げてくださった渡邊先生のおかげだと感じております。そして、福岡みずのわ会についても、渡邊先生を中心とした縁のわだかまりを感じ、後日、福岡みずのわ会のお誘いを受けた私は喜んで参加しました。

懇親会には、福岡市が幹事となつて福岡県、福岡県下水道管理センターが参加しております。近年はそれに加え福岡県内にあります直方市・宮若市・筑紫野市・古賀市等、さらには佐賀県の神崎市からも総勢30名を超える方々が参加されており、普段の業務ではなかなか交流の出来ない人とも胸襟を開いて話ができる機会であり、これが、福岡みずのわ会の魅力だと感じております。また、渡邊先生とは、研修の思い出話や京都の名所や楽しみ方のマナーなど、多岐に渡る話を伺うことができ、大変有意義な時間を過ごしました。今後も福岡みずのわ会のメンバーとの結びつきを一層強めていければと考えております。

私は、現在も下水道の設計監督業務を行っており、研修で学んだ知識や研修を機会に広がった「縁」を活かしながら業務に励んでいるところです。

最後に、今後もみずのわで広がった「縁」を広げていくとともに、福岡みずのわ会が末永く継続していきますよう、微力ながら尽力していきたいと考えております。



福岡みずのわ会 (集合写真)

筑豊みずのわ会

直方市産業建設部土木課

主査

村中 修平

(H26年度生)



はじめに、研修会報「みずのわ」の53回目の発刊おめでとうございます。今回この伝統ある研修会報に、渡邊良彦先生から直々に寄稿依頼の声を掛けて頂きました事は身に余る光栄であり、とてもうれしく存じます。

今回は直方市が位置する筑豊地域についてご紹介をさせていただきます。筑豊地区は福岡県の中部に位置し、筑豊という名称は、またがる地域の旧国名である【筑前】と【豊前】の頭文字をとったもので、明治時代以降、石炭資源を背景に新しく生まれた地域区分

であり、石炭業界団体の名前に由来します。かつては、筑豊炭

田から産出される石炭をもとにした鉱工業で栄えましたが、のちにすべて閉山し、現在は北九州市、福岡市との交通アクセスが良好であることから、両指定都市のベッドタウンとして人気のある地域です。直方市に至りましては、大都市近郊でありながら豊かな自然に恵まれ、明治以降の石炭産業の隆盛により交通の要衝として発展し、様々な都市機能が集積しています。また郊外には大型ショッピングセンターも進出し、いろいろな世代の方にとって非常に住みやすい街です。移住を考えているこのアナタ！直方市に移住しませんか？いいとこばい！

さて、『筑豊みずのわ会』ですが、今年で発足5周年となりました。5周年を迎えられたのも渡邊先生をはじめ、多くの方



筑豊みずのわ会 (集合写真)

のご協力の賜物だと感謝申し上げます。今後も10年、20年とこの会を続けていきたいと思っております。

先生を慕う私と事業団との出会いは6年前の平成26年度に実

施されました「実施設計コース 管きょ設計Ⅱ」の研修に参加させて頂いたことから始まりです。本市では毎年職員を研修に参加させて頂いておりますが、

その年は渡邊先生より幹事とい

う大役を仰せつかりました。もう随分前のことですが、今も目をつむると昨日の事のように思い出されます。余程楽しかったんでしょうね！あ、でも楽しんでばかりではありませんでしたよ！ちゃんと研修に打ち込み、今の業務に活かされております!!その研修で先生との縁が深まり、日々ご多忙な毎日をお過ごしなのにも係らず、毎年福岡をご訪問された際に直方市へわざわざ足を運んでいただいております。そんな先生を慕って近隣の宮若市、小竹町の職員や、福岡市の職員も駆けつけ、小さいながらも事業団での思い出や先生との馴れ初めを語り合う会として「筑豊みずのわ会」が発足しました。私自身異動して下水道部局の職員ではなくなりましたが、先生を囲むこの会が同窓会みたいで楽しみにしております。このご縁を大切にしていきたいものです。

最後になりますが、日本下水道事業団の益々のご発展、渡邊良彦先生の益々のご活躍を祈念いたしますと共に、「筑豊みずのわ会」が末永く継続していきますよう、微力ではございますが尽力してまいります所存です。

長文・乱文失礼致しました。

「JS研修」&「みずのわ 熊本会2019」について

熊本市上下水道局 計画整備部 計画調整課

技術参事 藤原 基

(H24・H26・H30年度生)



熊本市上下水道局計画調整課の藤原と申します。この度は、渡邊先生から達筆の「みずのわ」寄稿依頼を頂き、大変恐縮ではございますが、ありがたく引き受けさせて頂きました。

私は、平成22年度より下水道事業に携わっており、下水道事業団研修には平成24年度「設計照査（会計検査）」、平成26年度「管きよの液状化対策」、平成30年度「下水道の経営」の3コースを受講させて頂いております。渡邊先生との出会いは、その中でも最も思い出深い「管

きよの液状化対策」のコースで幹事を務めさせて頂いたことがきっかけでした。幹事として毎朝夕に渡邊先生とミーティングを行うのですが、その時に渡邊先生のプライベートな話から他自治体の情報等色々な話を聞かせて頂いたり、夜の懇親会では他の先生方や研修生達と交流をさせて頂いたり大変お世話になりました。その様な充実した研修の日々でしたが、一番印象に残っているのが、副幹事や研修生みんなで渡邊先生へ感謝のプレゼント作りを行うことになり、講義が終わってからプレゼント案の打合せや作成作業等を研修生と行い、結束の輪が広まりました。修了式の際は、私が代表で渡邊先生へプレゼントをお渡ししたのですが、その後、渡邊先生の掛け声で研修生みんなから「幹事お疲れ様！」

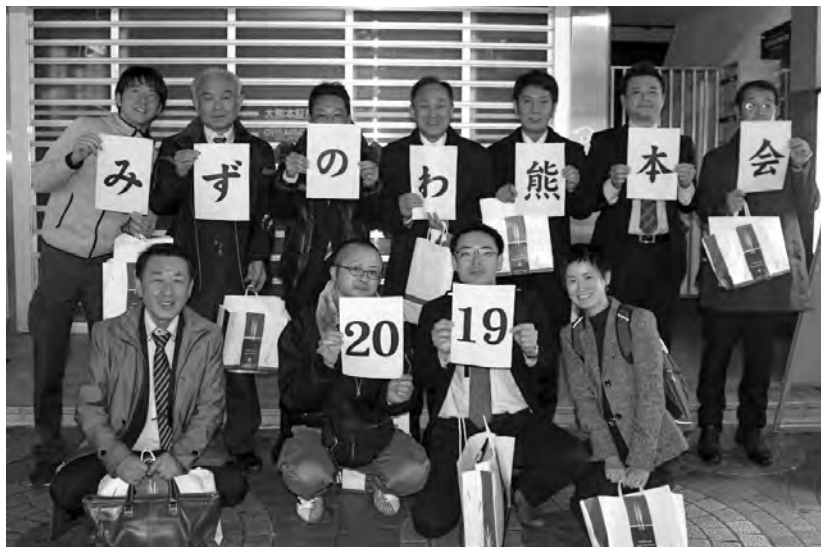
と言って、胴上げのサプライズをして頂きました。このサプライズは今でも忘れることはできません。渡邊先生、本当にありがとうございました。また、研修内容については当時、東日本大震災後、熊本市でも地震対策や液状化対策が急務となっていた為、「管きよの液状化対策」のコースを受講させて頂きました。研修は、4日間という短い期間でしたが、講師の方々の講義や被災した体験等を直に聞くことができ、液状化対策の必要性を実感する研修となったことを覚えております。その研修成果を活かし、地震対策事業を進めていた中での「平成28年 熊本地震」では、液状化対策を行った路線の被害が少なかったことで、液状化対策の重要性を改めて感じました。

研修後、私も毎年恒例の「みずのわ熊本会」に参加させていただくようになり、昨年3月にも熊本市で「みずのわ熊本会2019」を開催しました。「みずのわ熊本会」には渡邊先生を慕って熊本県内の下水道事業団研修の卒業生が集まり、盛大に行われております。長年参加している方や初めて参加した方など様々ではございますが、事業団研修時のお話や近況報告等を渡邊先生や他の皆様方とお話されて、皆様楽しい時間を過ごさせて頂けたと思います。

私も他自治体の方々と色々な話をさせて頂き、この「みずのわ熊本会」は、1年に1回ではありますが、他自治体の方々と交流ができる素晴らしい会と感じております。今後もこの縁を大事に自分の仕事に活かして行きたいと思っております。

また、3コースの受講で出会った先生方や研修生達と今後も横のつながりを大事にしていきたいと思っております。

最後になりますが、様々な出会の機会を頂きました渡邊先生に感謝するとともに日本下水道事業団研修センターの益々の発展を祈念し、終わりとさせて頂いたいただきます。



みずのわ熊本会（集合写真）

平成30年度研修生アンケート集計結果について

研修センターでは、研修の効果や研修生活等への満足度を把握し、皆様の貴重なご意見を今後の研修に反映させるため、毎年、戸田研修に参加された研修生の皆様を対象として研修アンケートを実施させて頂いております。

今回、平成30年度に受講した研修生へのアンケート結果についてご報告させて頂きます。約860名、概ね2/3の方よりご回答をいただきました。ご回答頂いた皆様にはご協力に感謝致します。

1 講義内容の満足度

研修内容では、全8,970講義(延べ数)のうち、グラフ1のように約4割の方が「大変良い」、約5割の方が「やや良い」と回答され、満足度の高いものとなっております。しかし、約1割弱の方が「やや悪い」「悪い」と回答されています。これは、求めている内容と講義内容に相違があると認識された場合や、演習での時間が不足してすべて

理解できなかったことなどが主な要因です。演習や質問の時間をなるべく確保するなど、可能な限り個々の要望に対応していきたい、満足度100%に近づけるよう努力してまいります。

2 研修効果への満足度

研修効果では、全8,953講義(延べ数)のうち、グラフ2のように約4割の方が「大変良い」、約5割の方が「やや良い」と回答されています。

一方、約1割弱の方が「やや悪い」「悪い」と回答されました。理由としては講義内容とほぼ同様です。

3 研修生活について

研修生活では、全865人のうち、グラフ3のように約6割の方が「非常に楽しかった」、約3割の方が「少し楽しかった」と回答され満足度が高くなっています。しかし、約1割の方が

「あまり楽しくなかった。」「非常に楽しくなかった。」と回答されています。これは、共同生活に不安を抱いて参加される方が多い中、同室の研修生と協調できるかどうかが大きなポイントになっていると思われれます。最後の感想に個室が良かった、少人数の部屋が良かった等のご意見や感想もあり、これに対しては新寮室棟の建設を予定しておりますので、これが完成すればある程度対応が可能になるも

のと考えております。せっかくの全寮制生活ですので、研修生同士が交流を深め、人的ネットワークの構築に努めて頂ければ幸いです。

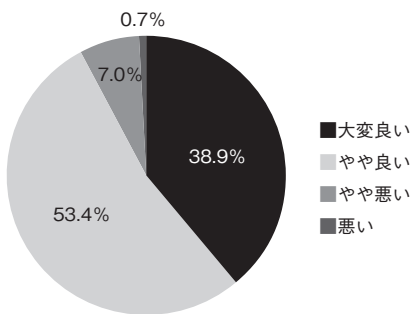
4 その他

食堂については、約3/4の方が満足と答えられています。これにつきましては、研修生個々の嗜好の違いや生活スタイルの違い等もあり、完全な満足度

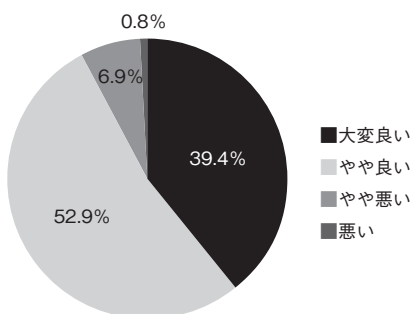
を得ることは難しいと考えておりますが、今回頂いたご意見を参考として、今後の食堂運営の改善に努めて参りたいと考えております。

研修センターでは、今後とも研修内容の質の確保と向上を図りつつ、皆様のニーズにあった研修の実施に努めて参りたいと考えておりますので、引き続きまして、皆様方のご理解とご鞭撻の程、宜しくようお願い致します。

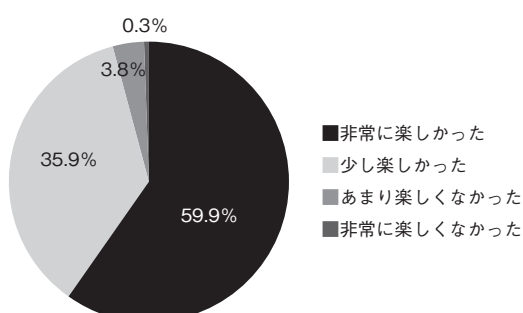
グラフ1 講義内容の評価



グラフ2 研修効果の評価



グラフ3 研修生活の評価



令和2年度JS研修センター研修計画調査等の集計結果及び 令和2年度研修実施計画について

研修センター研修企画課

毎年、地方公共団体・下水道
公社等の皆様に研修に関する調
査を実施させていただき、研修
人員の把握と皆様のご意見を研

修に反映させるため研修アン
ケートを実施しております。昨
年9月に発送・ご回答いただき
ました、令和2年度JS研修セ
ンター研修計画調査等の集計結
果についてご報告させていただきます。
2、224団体に発送
し、そのうち296団体よりご
回答をいただきました。ご協力
ありがとうございました。

1. JS研修への参加 の有無について

戸田研修830名、地方研修
299名の参加希望のご回答を
いただきました。

ご希望通りに受講できるよ
う、企画調整・実施に努めてま
いますので、よろしくお願
いいたします。

2. 実施を希望される 研修について

「下水道BCP計画」、「企業
会計適用後の実務」や「電気設
備の点検巡視の方法」など幅広
いご意見をいただきました。す
でに実施している内容もござい
ますが、希望される研修が実施
予定の研修の中で反映できるよ
う努めてまいります。

3. JS研修の受講に よる人材育成への 効果について

JS研修の受講が人材育成を
行う上での効果について、回答
296団体のうち188団体よ
り「役に立った」、「少し役に立っ
た」とのご回答をいただき、「役
に立たなかった」との回答はあ
りませんでした。

今後もお役に立てる研修内
容・実施に努めてまいります。

4. 研修期間の短縮化 (5日間→4日間) について

「参加しやすくなるが、更な
る短縮を希望」、「1〜3日間の
研修を希望」など、研修期間の
短縮を希望されるご意見を多く
いただきましたので、研修の内
容・質を確保しつつ、研修期間
の短縮を今後も検討してまいり
たいと思います。

5. その他ご要望に ついて

「地方研修の充実」、「研修内
容の充実」、「短期研修（1〜2
日）の実施」、「受講料の削減」
などのご意見をいただきました
。研修の内容・質を確保しつ
つ、ニーズにあった対応をして
まいりたいと考えておりますの
で、ご理解・ご鞭撻をお願い
いたします。

6. 令和2年度研修 実施計画について

令和2年度の研修について
は、地球温暖化に対する国の施
策を踏まえたコースの新設、ア
ンケート結果などを踏まえた既
存コースの一部リニューアルを
実施する予定です。また、近年
の出水期の長期化傾向などによ
り長く職務を離れられなくなっ
ている状況を考慮し、より多く
の方が受講しやすいように研修
期間の短縮化や研修の地方開催

などにも力を入れていきます。
また、より充実した内容の研
修となるよう、随時カリキュラ
ム等の見直し、改善を行いつつ
研修を実施していく予定です。
日本下水道事業団研修セン
ターは、時代に即応した現場で
役立つ、実践的な研修実施念頭
に令和2年度においても、必要
に応じて新規研修を企画・立案
するなど、社会のニーズに即し
た研修事業を実施していきま
す。



5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
19 ■■■ 22									
	22 ■■■ 25				26 ■■■ 29				
		3 ■■■ 6							
		20 ■■■							
		30 ■■■ 31		17 ■■■ 18					
			17 ■■■ 20				14 ■■■ 17		
					15 ■■■ 16				
				15 ■■■ 17				27 ■■■ 29	
						16 ■■■ 19			
		8 ■■■ 9							
				28 ■■■ 1					
					15 ■■■ 16				
18 ■■■ 22									
	30 ■■■ 3								
						10 ■■■ 13			
							15 ■■■ 18		
						16 ■■■ 19			
								2 ■■■ 5	
20 ■■■■■ 5									
	6 ■■■■■ 17		31 ■■■■■ 11			30 ■■■■■ 11		25 ■■■■■ 5	
	10 ■■■■■ 26		26 ■■■■■ 11	30 ■■■■■ 16		25 ■■■■■ 11		20 ■■■■■ 5	
		8 ■■■■■ 17				4 ■■■■■ 13			
		27 ■■■■■ 31				26 ■■■■■ 30			
					28 ■■■■■ 2				
2 ■■■ 5					19 ■■■■■ 30				
		3 ■■■ 7							
							17 ■■■■■ 20		
							10 ■■■■■ 13		
								3 ■■■ 5	
	30 ■■■■■ 10								
			24 ■■■■■ 4			30 ■■■■■ 11			
								25 ■■■■■ 29	
	7 ■■■■■ 10								
					29 ■■■■■ 9			12 ■■■■■ 22	
					5 ■■■■■ 9			18 ■■■■■ 22	
			官のみ 19 ■■■■■ 28			官・民 25 ■■■■■ 4			
		20 ■■■■■ 22							
								22 ■■■	
					7 ■■■■■ 16				
						9 ■■■■■ 13			
				2 ■■■■■ 11					
19 ■■■ 20									
21 ■■■ 22									
	25 ■■■■■ 26								
				10 ■■■■■ 11					
				15 ■■■■■ 18					
							1 ■■■ 2		

令和2年度 研修実施計画

コース	専攻名	官民区分	クラス	研修期間	研修回数	受講料(円)
計画設計	下水道事業入門	官	初	4	1	130,600
	■ 下水道事業の計画の策定・見直し	官	中	4	2	130,600
	■ 総合的な雨水対策	官	中	4	1	130,600
	浸水シミュレーション演習	官	特	1	1	30,400
	■ アセットマネジメント・ストックマネジメント(入門編)	官	初	2	2	60,700
	アセットマネジメント・ストックマネジメント(実務編)	官	特	4	2	130,600
	事務・技術「共に考える」持続的下水道経営	官	中	2	1	60,700
	下水道事業の広域化・共同化	官	特	3	1	119,000
	下水道事業における危機管理と災害対策	官	特	3	1	119,000
	技術系職員のための公営企業会計(入門編)	官	初	4	1	130,600
特別	トップセミナー	官	特	2	1	30,400
経営	下水道の経営	官	中	4	1	130,600
	事務・技術「共に考える」持続的下水道経営(再掲)	官	中	2	1	60,700
	企業会計－移行の準備と手続き－	官	中	5	1	142,300
	消費税	官	中	4	1	130,600
	下水道使用料	官	中	4	1	130,600
	■ 受益者負担金	官	中	4	1	130,600
	滞納対策	官	特	4	1	130,600
	■ 接続・水洗化促進と情報公開	官	中	4	1	130,600
実施設計	管きよ基礎	官	初	17	1	226,200
	管きよ設計Ⅰ	官	初	12	4	198,400
	管きよ設計Ⅱ	官	中(指)	17	5	226,200
	推進工法	官	中	10	2	177,300
	管更生の設計と施工管理	官	中	5	2	142,300
	設計照査(会計検査)	官	中	5	1	142,300
	排水設備工事の実務	官	特	4	1	130,600
	処理場設計Ⅰ	官	初	5	1	142,300
	処理場設計Ⅱ	官	中(指)	12	1	198,400
	■ 処理場設備の設計(機械設備)	官	中	4	1	130,600
	■ 処理場設備の設計(電気設備)	官	中	4	1	130,600
	設備の改築更新	官	中	3	1	119,000
	工事監督管理	工事管理	官	中(指)	11	1
維持管理	管きよの維持管理	官	初	12	2	189,000
	管きよの点検・調査	官	特	5	1	142,300
	● 処理場管理の基礎	官	初	4	1	130,600
	● 処理場管理Ⅰ	官	初	11	2	189,000
	注 処理場管理Ⅰ(実習編)	官	初	5	2	58,400
	処理場管理Ⅱ	一部※	中(指)	10	2	177,300
	電気設備の保守管理	官	中	3	1	119,000
	● 省エネ法・温対法対応入門	官	初	1	1	30,400
	水質管理Ⅰ	※	初	10	1	177,300
	水質管理Ⅱ	※	中	5	1	142,300
	事業場排水対策	官	中	10	1	177,300
	水処理施設の管理指標の活かし方	※	特	2	1	60,700
	水質管理のトラブル対応	※	特	2	1	60,700
官民連携・国際展開	官民連携	官	特	2	1	60,700
	官民連携・国際展開	官	特	2	1	60,700
	効果的な包括的民間委託の導入と課題	官	中	4	1	130,600
	処理場の包括的民間委託における履行確認	官	中	2	1	60,700

●は、新設・リニューアル講座 ■は、期間・回数の見直し ※は、官民合同研修

注は、平成30年度、令和元年度に「処理場管理Ⅰ(講義編)」を受講された研修生のみが対象

＜参考＞ 下水道法施行令第15条及び同第15条の3に定める資格要件

下水道法施行令第15条及び同第15条の3	(区分)		(要件)		資格取得に必要な下水道技術に関する実務経験年数 (注1)			
	卒業又は修了した学校等	卒業又は修了した学科等	履修した学科目等	計画設計 (注2)	監督管理等 (注3)		維持管理	
					処理施設 ポンプ施設	排水施設	処理施設 ポンプ施設	
第1号	新制大学	土木工学科、衛生工学科又はこれらに相当する課程	下水道工学	7 (3.5)	2 (1)	1 (0.5)	2 (1)	
	旧制大学	土木工学科又はこれに相当する課程	—					
第2号	新制大学	土木工学科、衛生工学科又はこれらに相当する課程	下水道工学に関する学科目以外の学科目	8 (4)	3 (1.5)	1.5 (1)	3 (1.5)	
第3号	短期大学	土木科又はこれに相当する課程	—	10 (5)	5 (2.5)	2.5 (1.5)	5 (2.5)	
	高等専門学校							
	旧制専門学校							
第4号	新制高等学校	土木科又はこれに相当する課程	—	12 (6)	7 (3.5)	3.5 (2)	7 (3.5)	
	旧制中等学校							
第5号	前4号に定める学歴のない者		—	—	10 (5)	5 (2.5)	10 (5)	
第6号	新制大学の大学院		5年以上在学 (卒業)	下水道工学	4 (2)	0.5 (0.5)	0.5 (0.5)	0.5 (0.5)
	新制大学の大学院又は専攻科		1年以上在学	下水道工学	6 (3)	1 (0.5)	0.5 (0.5)	1 (0.5)
	旧制大学の大学院又は研究科							
	短期大学の専攻科		1年以上在学	下水道工学	9 (4.5)	4 (2)	2 (1)	4 (2)
	国土建設学院等		上下水道工学科	—	10 (5)	5 (2.5)	2.5 (1.5)	—
	外国の学校		日本の学校による学歴、経験年数に準ずる。		—	—	—	—
	指定された試験		下水道管理技術認定試験 (処理施設)		—	—	—	2 (1)
	指定講習	日本下水道事業団	下水道の設計又は工事の監督管理資格者講習会		—	5 (2.5)	2.5 (1.5)	—
下水道維持管理資格者講習会			—	—	—	5 (2.5)		
第7号	日本下水道事業団法施行令第4条第1項に定める技術検定		第1種技術検定合格	5 (1.5)	2 (0.5)	1 (0)	—	
			第2種技術検定合格	—	2 (0.5)	1 (0)	—	
			第3種技術検定合格	—	—	—	2 (0)	
第8号	技術士法による二次試験		下水道を選択科目として水道部門に合格した者	—	0 (0)		0 (0)	
			水質管理又は廃棄物処理を選択科目として衛生工学科部門に合格した者	—	—	—	0 (0)	

(注) 1 表記例



下水道を含む関連インフラの経験を合算した全体の経験年数

↑
全体の経験年数のうち下水道の経験年数

＜関連インフラ＞

- ・計画設計及び実施設計・工事の監督管理の場合
～下水道、上水道、工業用水道、河川、道路
- ・維持管理の場合
～下水道、上水道、工業用水道、し尿処理施設

2 「計画設計」とは、事業計画に定めるべき事項に関する基本的な設計をいう。

3 「監督管理等」とは、実施設計 (計画設計に基づく具体的な設計) 又は工事の監督管理 (その者の責任において工事を設計図書と照合し、それが設計図書の通りに実施されているかどうかを確認する事。) をいう。

下水道技術検定及び下水道管理技術認定試験について

日本下水道事業団 研修センター管理課

○下水道技術検定とは

下水道法第22条において、下水道管理者（地方公共団体）は、下水道を設置・改築する場合は、設計及び工事の監督管理並びに下水道の維持管理については、下水道法施行令で定める資格を有する者に行わせなければならぬとされています。

日本下水道事業団では、下水道法施行令に基づき資格取得のために必要な実務経験年数を短縮できる効果のある国土交通省令に定められた「指定講習」並びに「下水道技術検定」を実施しています。

同検定は、地方公共団体における有資格者の早期確保などを目的に創設された制度で、前述したとおり合格すると下水道法第22条の資格取得について必要とされる実務経験年数を短縮する特例が認められています。

この検定試験は、技術の内容に応じて「第1種技術検定」、「第2種技術検定」、「第3種技術検定」の3つの区分に分かれています。

なお、実務経験年数の短縮効果のほかに第3種技術検定については、平成17年2月28日付で下水道処理施設維持管理者登録規程（昭和62年建設省告示（昭62）が改正され、登録規程に基づき登録するにあたっては、第3種技術検定に合格し所定の実務経験年数を有する者を営業所ごとに置くこととするとともに、維持管理の包括的民間委託契約においては、民間事業者側に下水道法施行令第15条の3に掲げる資格を有する技術者を置き、業務に当たらせることが必要となっています（平成16年国都下管第10号下水道管理指導室長通知）。

・技術検定の区分、検定対象試験科目、試験方法

区分、試験科目、試験の方法については、表1のとおりです。

○下水道管理技術認定試験とは

認定試験は、下水道管路施設の維持管理業務に従事する技術者の技術力を公平に判定し認証することにより、管路施設維持管理の健全な発展と技術者の技

術水準の向上を図り、もって下水道の適正な維持管理に資することを目的にした制度です。

・認定試験の区分、試験対象、試験科目、試験方法

区分、試験科目、試験の方法については、表2のとおりです。

○下水道技術検定等の実施内容

・実施期日 例年、11月前半の日曜日に実施しています（令和元年度は11月10日（日））。

・実施場所 例年、全国11都市で実施しています（札幌市、仙台市、東京都、新潟市、名古屋市、大阪市、広島市、高松市、福岡市、鹿児島市及び那覇市）。

・受験資格 受験資格についての制限はなく、誰でも受験できます。

・その他 例年、5月中旬に試験日程や受験申込受付期間が公表されます。（令和元年度の申込受付期間は6月24日（月）から7月17日（水））。

申込方法については、平成29年度からインターネットを活用した電子申請システムを導入しており、職場からでも、ご自宅からでも便利に申込できるようになりました。

表1

検定区分	検定の対象	試験科目	試験方法
下水道技術検定	第1種技術検定	下水道の計画設計を行うために必要とされる技術	多肢選択式及び記述式
	第2種技術検定	下水道の実施設計及び工事の監督管理を行うために必要とされる技術	多肢選択式
	第3種技術検定	下水道の維持管理を行うために必要とされる技術	多肢選択式及び法規

表2

試験区分	試験の対象	試験科目	試験方法
下水道管理技術認定試験	管路施設の維持管理を適切に行うために必要とされる技術	工場排水、維持管理、安全管理及び法規	多肢選択式

○令和元年度の
実施結果

第2種技術検定の受験申込者は1,122人、受験者は882人、合格者は244人となり、受験者に対する合格率は27.7%となりました。

第3種技術検定の受験申込者は5,694人、受験者は4,886人、合格者は1,330人となり、受験者に対する合格率は27.2%となりました。

下水道管理技術認定試験（管路施設）の受験申込者は1,881人、受験者は1,654人、合格者は532人となり、受験者に対する合格率は32.2%となりました。

なお、第1種技術検定の合格発表は、令和2年2月7日（金）を予定しています（受験申込者は111人、受験者は67人）。

○技術検定及び
認定試験に関する
問い合わせ先

日本下水道事業団
研修センター管理課
電話048-421-
2076

過去5年間の受験者数、合格者数、合格率をご案内します。
（別表）

合格率をみますとハードルの高い検定試験かと思われるかもしれませんが、令和元年度の例（第3種の場合）をみますと、3割程度は不正解でも合格となっております。

下水道業務に従事される皆様、ぜひ資格取得あるいは技術向上のために、この技術検定にチャレンジしてみませんか。

（参考）第45回下水道技術検定及び第33回下水道管理技術認定試験合格基準一覧

試験区分		出題方式	出題数	満点	(令和元年度の)合格基準点
下水道技術検定	第2種	択一式	60問	60	41
	第3種	択一式	60問	60	40
認定試験	管路施設	択一式	50問	50	36

<別表>★下水道技術検定

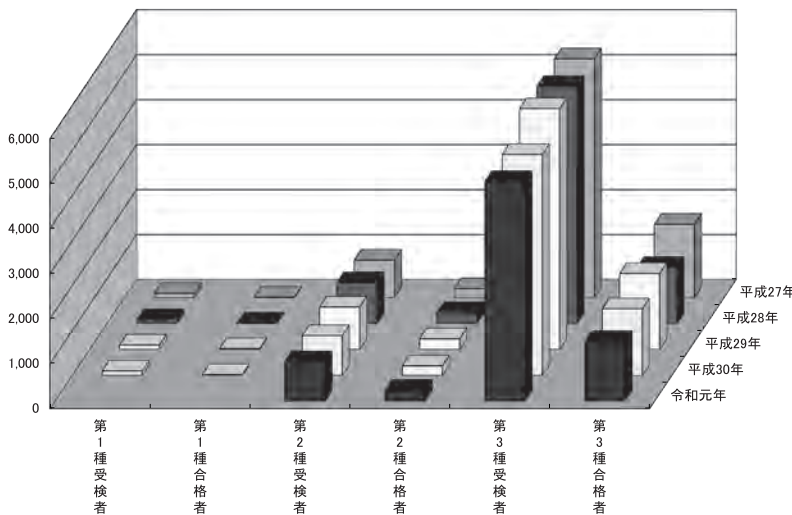
実施年度	実施回数	第1種技術検定			第2種技術検定			第3種技術検定		
		受検者数	合格者数	合格率	受検者数	合格者数	合格率	受検者数	合格者数	合格率
平成27	41	97	14	14.4	838	204	24.3	5,310	1,635	30.8
平成28	42	92	13	14.1	911	247	27.1	5,271	1,248	23.7
平成29	43	100	20	20.0	943	237	25.1	5,352	1,690	31.6
平成30	44	100	16	16.0	885	212	24.0	4,910	1,480	30.1
令和元	45				882	244	27.7	4,886	1,330	27.2

(単位：人%)

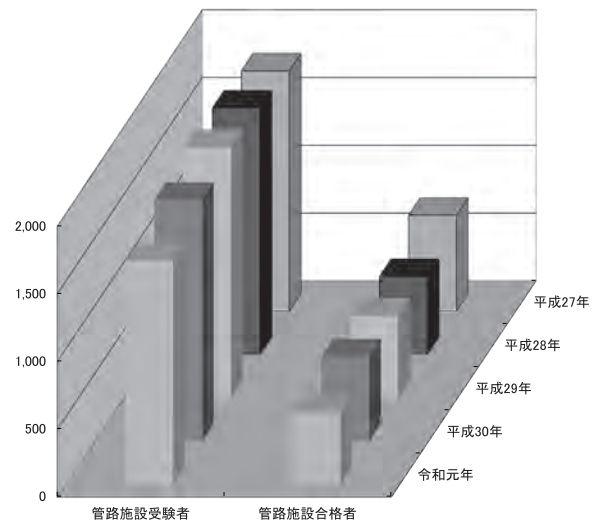
<別表>★下水道管理技術認定試験

実施年度	実施回数	管路施設		
		受験者数	合格者数	合格率
平成27	29	1,772	708	40.0
平成28	30	1,818	577	31.7
平成29	31	1,850	608	32.9
平成30	32	1,782	628	35.2
令和元	33	1,654	532	32.2

(単位：人%)



下水道技術検定



下水道管理技術認定試験

研修センターの歩み

昭和47年	11・1	下水道事業センター発足 初代研修部長 岩崎 保久就任	平成10年	7・14 8・1	第11代本部長 黒沢 宥就任 参与 内田 信一郎就任
昭和48年	2・6 5・ 12・27	研修部で研修開始 プレハブ校舎完成 試験研修本館着工	平成11年	4・1	第13代研修部長 大嶋 吉雄就任
昭和49年	1・16 12・1	研修会報（研修みずのわ）創刊 第2代研修部長 丸山 速夫就任	平成12年	6・30 7・3	研修修了生3万5千人達成 第14代研修部長 渡部 春樹就任
昭和50年	3・25 4・16 8・1	試験研修本館竣工 初代試験研修本部長 池田 一郎就任 日本下水道事業団発足 第2代本部長 岡崎 忠郎就任	平成13年	1・20 4・16	第12代本部長 中橋 芳弘就任 参与 福智 真和就任
昭和51年	3・14 8・1 11・21	第1回下水道技術検定試験実施 第3代研修部長 橋本 定雄就任 第2回検定試験実施（以後毎年11月中旬実施）	平成14年	4・1 11・1	第15代研修部長 篠田 孝就任 研修修了生4万人達成 事業団設立30周年を迎える
昭和52年	2・16 4・1	第3代本部長 上田 伯雄就任 第4代研修部長 武田 篤夫就任	平成15年	4・16 10・1	参与 色摩 勝司就任 「特殊法人整理合理化計画」に基づき、 日本下水道事業団が地方共同法人となる
昭和53年	4・1 11・16	第4代本部長 遠藤 文夫就任 常任参与 安田 靖一就任	平成16年	4・1	機構改革により「研修センター」発足 第16代研修センター所長 大嶋 篤就任
昭和54年	6・9	第5代研修部長 野端 利治就任	平成17年	4・1 8・1 10・21	第17代研修センター所長 成田 愛世就任 第13代本部長 安藤 明就任 研修生4万5千人達成
昭和55年	10・1	第5代本部長 卜部 壮一就任	平成19年	4・1 11・1	第18代研修センター所長 高島英二郎就任 事業団設立35周年を迎える
昭和56年	3・31	研修修了生（延べ）7,603人となる	平成20年	1・19 1・30	研修修了生5万人達成 研修修了生5万人達成記念行事開催
昭和57年	6・5 11・1	第6代研修部長 伊阪 重信就任 事業団設立10周年を迎える	平成21年	7・14	第19代研修センター所長 藤生 和也就任
昭和58年	4・1 8・29 11・16	常任参与 藤井 秀夫就任 研修修了生1万人達成 第6代本部長 中村 瑞夫就任	平成22年	4・1 4・22 6・10 8・3 3・11	第14代本部長 村上 孝雄就任 研修修了生5万5千人達成 本館耐震化工事着手 研修業務検討委員会設置 東日本大震災
昭和59年	4・12	試験研修本部を技術開発研修本部 に名称変更する。	平成23年	4・1 9・21	機構改革により技術開発研修本部長を廃止し、 研修・国際担当理事を設置。 初代理事 村上 孝雄就任 臨時研修「地震対策」実施
昭和60年	1・1 3・27	第7代研修部長 真船 雍夫就任 新厚生棟完成	平成24年	4・17 11・1 11・22 3・29	研修修了生60,000人達成 事業団設立40周年を迎える 臨時研修「放射能対策」実施 本館耐震化工事終了
昭和61年	10・1	第7代本部長 苔米地 行三就任	平成25年	4・1 11・1	第20代研修センター所長 藤本 裕之就任 第2代研修・国際担当理事 野村 充伸就任
昭和62年	3・31	研修修了生（延べ）14,311人となる	平成26年	4・1	第21代研修センター所長 花輪 健二就任
昭和63年	1・1 4・1	第8代研修部長 石川 廣就任 第8代本部長 千葉 武就任	平成27年	11・1	第3代研修・国際及び西日本担当理事 畑田 正憲就任
平成元年	9・1	常任参与 村上 仁就任	平成28年	4・1 7・1	第22代研修センター所長 細川 顕仁就任 研修修了生70,000人達成
平成2年	3・31 6・11	本館改修工事竣工 第9代研修部長 亀田 泰武就任	平成29年	10・4 11・1	新寮室棟基本設計着手 事業団設立45周年を迎える
平成3年	7・16 7・26	第10代研修部長 石川 忠男就任 研修修了生2万人達成	平成30年	3・16 4・1 5・22 8・21	新寮室棟基本設計完了 第23代研修センター所長 松村 弘之就任 新寮室棟詳細設計着手 研修修了生75,000人達成
平成4年	4・1 4・1 11・1	第9代本部長 清野 圭造就任 第11代研修部長 星隈 保夫就任 事業団設立20周年を迎える	令和元年	9・27 11・1 11・30	新寮室棟詳細設計完了 第4代研修・国際担当及び東日本担当理事 畑 恵介就任 新寮室棟（仮称）着工
平成5年	7・1	常任参与 北井 克彦就任			
平成6年	7・1 10・7	第10代本部長 小林 紘就任 研修修了生2万5千人達成			
平成7年	7・5	総合実習棟竣工			
平成8年	4・1	第12代研修部長 竹石 和夫就任			
平成9年	3・20 9・29 11・1	本館改修工事竣工 研修修了生3万人達成 事業団設立25周年を迎える			

裏表紙の写真

日本下水道事業団研修センターの本館棟と総合実習棟
撮影地：埼玉県戸田市

編集後記

令和新時代、最初の号が「研修受講生 7 万 5 千人達成記念号」ということで、大変喜ばしく、感謝の気持ちでいっぱいでございます。

昭和、平成、令和と 3 つの時代で研修生をつなぎ、ひろがっているみずのわが、皆様のお力添えのもと、今後とも絶え間なく令和のその先もひろがっていくことを願っております。

本号を発刊するにあたり、お忙しい中、ご執筆をいただいた皆様には厚く御礼申し上げますとともに、これからも当研修センターの研修業務におきまして、ご指導・ご鞭撻のほど何卒、よろしく願いたします。

研修企画課 青島



「みずのわ」の名前の由来

滑らかな水面に落とした一滴のしずくがつくる小さな輪が大きく広がる様から、研修生の輪が一人から全国へ、一都市から全国の都市へと大きくなつなかりが生まれるように、との期待を託したものです。



機関誌「研修みずのわ」 第53号

令和2年1月発行 第53号

発行 地方共同法人 日本下水道事業団 研修センター
〒335-0037 埼玉県戸田市下笹目5141

TEL 048-421-2692

FAX 048-422-3326

印刷 株式会社石井印刷